

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方案
○学ぶ喜びと達成感を味わえる学校 ○やさしさとたくましさをもち、あたりまえのことがあたりまえにできる子ども ○教育目標の具現化に向けたビジョンとミッションをもち、心意気のある教師		学力の充実に向け、指導法の改善及び家庭学習の充実を図る必要がある。	・高学年における学級2分割による指導、中学年における複数教員による領域を特化した指導、低学年における丸付け先生の活用を行う。 ・家庭学習において、手引きの改善及び効果的な活用を図るための家庭と連携した取組を行う。
		新体力テストの結果を受け、体力向上に関する活動を推進する必要がある。	・体力アップカードの活用の徹底を図り、外で遊ぶことや体を動かすことに関する興味・関心を高める。 ・主運動と連携する体ほぐしの運動やコーディネーショントレーニングを導入することで、運動する楽しさを味わわせるようにする。
		不登校・行き渋り傾向の児童の解消に向けた取組をさらに充実させる必要がある。	・学級活動や道徳科の授業を通して、子どもたちの居場所づくりや心の安定を図る。 ・校内支援委員会やケース会議を通して、指導の共通理解・共通実践を進めると共に、家庭や地域、関係機関との密な連携を図る。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の育成に向けた取組の充実(指導法の改善及び家庭学習の充実)	・月に1回、中学年において複数教員による自然度加指導を行い、学力の定着を図る(年度末に実施するテストにおいて、定着率8割) ・観点をもとに、聞き手に分かりやすい話し方について指導する((職員による肯定的評価8割)。 ・教員各々が作成した指導案をもとに授業を参観し合い、授業後協議する機会を設定する(全員年1回以上)。	・月1回の中学年での複数教員による指導については、本年度方法を変えて行った結果、テストにおける定着率は80.3%であった。またこの取組については、9割を超える児童が有用感をもっていることが明らかになった(アンケートによる肯定的評価)。 ・観点をもとに、聞き手に分かりやすい話し方を指導することについては、職員による肯定的評価は9割であった。 ・教員各々が作成した指導案をもとに授業を参観し合い、授業後協議することについては、ほぼ実施できている。 ・本年度作成・配布した「家庭学習の手引き」については、PTA運営委員会で「気を付ける点があった」「子どもと話し合うきっかけができた」等の声が聞かれ、8割以上の肯定的評価を得ることができた。	
	・「家庭学習の手引き」を作成・配布することを通して、家庭学習の啓発に努める(PTA運営委員会による肯定的評価8割)。		
体力向上に関する取組の推進	・体力アップカードの活用に取り組み、自分が設定した目標を達成する(全児童の7割)。 ・体育において、コーディネーショントレーニングを取り入れた授業を行う(前年度との比較で、職員による肯定的評価6割)。 ・大縄集会を実施すると共に、前年度よりうまく跳べるようになったと実感できた児童を増やす(全児童の7割)。	・体力アップカードの活用については、全児童の7割の達成ができていない。その原因としては、意識の薄さがあるが、夏の暑い時期に遊べなかったり冬の寒い時期に外で遊ぶ機会が少なくなったことが挙げられる。次年度は、もっときめ細かく呼びかけを行ったり達成した児童数を全校で通知したりしながら、取組を促す必要がある。 ・コーディネーショントレーニングについては、前年度よりも取り入れたという職員が6割弱であった。 ・本年度も実施した大縄集会については、アンケートによると、前年度よりうまく跳べるようになったと感じている児童が9割弱であった。また9割弱の児童が大縄集会を行ったことにより体を動かすことが好きになったと感じていることも明らかになった。	
	0		
いじめ防止及び不登校・行き渋り傾向の児童の解消に向けた取組の充実	・いじめにつながる言動の解消に向け、児童を対象にアンケートを実施すると共に、その指導を行う(毎月1回実施)。 ・道徳や学級活動の授業において、仲間意識や所属感を高めるような指導に努める(職員による肯定的評価7割)。 ・SSWやSCとの連携を図りながら、指導の共通理解を進め、不登校・行き渋りの児童を減らす(不登校及び長欠児童を一桁にする)。	・いじめにつながる言動の解消に向けたアンケートの実施とその指導については、月初めの日にアンケートをとり、その結果を見て担任から指導をすぐに行うことができた。職員による肯定的評価では、100%であった。 ・道徳や学級活動の授業における仲間意識や所属感を高める指導については、職員による肯定的評価では、100%であった。 ・不登校及び行き渋り児童を減らすことについては、不登校児童3名、長欠児童5名、合わせて8名であった。これについては、SSWやSCとの連携を含め、家庭訪問を積極的に行い、家庭の協力を得たことが大きかったと考えている。	
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
・本年度、家庭学習の手引きを作成したという報告であったが、ぜひ授業と家庭学習が結びつき、学力向上に向けた取組の充実を図っていただきたい。そのためにも、学校側から保護者側への発信や依頼をどんどん行ってほしい。また体力の向上、いじめ防止も学校のみで抱え込まず、地域にも協力を仰いでもらえたらと思う。 ・学校の始業前、休み時間、放課後等の時間にできるだけ多くの子どもを自由に遊ばせる工夫をお願いしたい、大縄集会のように全校で遊ぶ取組を増やしたらよい。 ・不登校の改善はなかなか難しいと思うが、とにかく親の考え方を聞いて、改善策を検討していく。 ・他校との比較、本校のポジション、特色の顕在化、市全体との比較等の提示を行ってほしい。 ・毎回評価を提出形式とし、最終は総括のみとして、提案する方式をとってはどうか。 ・家庭内に関する問題が根本と思われる事象に対し、学校の対応が難しいと思う。SSW、SCと共に弁護士他、法的なバックボーンの整備が必要だと思う。			